

失語症のある人の 雇用支援のために

事業主と失語症のある人のための雇用支援ガイド

失語症って何？

失語症のある人は
どのような仕事を
しているのだろう…

働きたいが、
どこに
相談すればよいのだろう…

職場の人は、
失語症のある人にどのような
配慮をしているのだろう…

このリーフレットは、失語症のある人が就職し、職業生活を継続していくために必要な、失語症についての知識や配慮・支援について事業主と失語症のある人が理解を深めることを目的としています。

失語症とは？

失語症は言語障害の一種です。

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」など言葉を使う作業が上手くできなくなる障害です。

主には脳出血、脳梗塞などの脳血管障害によって脳の言語機能の中枢（言語野）が損傷されることにより、一旦獲得した言語機能が損なわれている状態のことを指します。

リハビリとして、言語聴覚士の指導の下で言語訓練等を行います。

なお、身体障害者手帳では以下のような区分にあたります。

- ・身体障害者手帳 3 級（音声機能、言語機能、又はそしゃく機能の喪失）
- ・身体障害者手帳 4 級（音声機能、言語機能、又はそしゃく機能の著しい障害）

※ 失語症に関するより詳しい情報（原因や治療法など）については障害者職業総合センター 調査研究報告書 No. 104「失語症のある高次脳機能障害者に対する就労支援のあり方に関する基礎的研究」等をご参照下さい。



聞くことの障害

- ・音や声があっても「ことば」や「話」の内容が理解できない。
- ・早口で話されたり、長い話になるとわからなくなる



読むことの障害

- ・新聞や雑誌、メモなどを読んでも理解が難しい
- ・声に出して読み上げることができない



話すことの障害

- ・伝えたいことをうまくことばにできない
- ・発話がごちない
- ・いいよどみが多くなったり、逆に回りくどく話したりする



書くことの障害

- ・書き間違いが多い
- ・「てにをは」などをうまく使えない
- ・文を書くことが難しい

代表的な失語症

運動性失語（ブローカ失語）

話し言葉の聴き取りは可能ですが、自分から話すことが上手くできなくなるタイプの失語症です。読んで理解することは比較的良好ながら書くことは難しくなる場合が多くみられます。

感覚性失語（ウェルニッケ失語）

話し言葉の聴き取りが上手くできなくなります。話すことは流暢に行えますが、内容が伴わないこともあります。読むこと、書くこと共に困難になる場合が多く見られます。

健忘性失語（失名詞失語）

話したり聞いて理解したりはかなりよく出来ますが、言葉が上手く思い出せない「失名詞症状」、考えていることを上手く言葉にできない「換語困難症状」が特徴です。

伝導失語

話したり聞いて理解したりは問題ないことが多いですが、同じ言葉を繰り返す「復唱」が上手くできなくなるタイプの失語症です。

職場での支援のポイント

失語症者との会話に際して

- 表情がわかるよう、顔を見ながら、ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける。
- 一度でうまく伝わらない時は、繰り返して言ったり、別のことばに言い換えたり、漢字や絵で書いたり、写真・実物・ジェスチャーで示したりすると理解しやすい。
- 「はい」「いいえ」で答えられるように問いかけると答えやすい。
- 話し言葉以外の手段（カレンダー、地図、時計など身近にあるもの）を用いると、コミュニケーションの助けとなる。

失語症の各症状への対応例

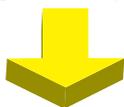


失語症に合併する他の主な高次脳機能障害への対応

失語症のある人は以下のような症状を併せ持つことが多いです。

記憶障害

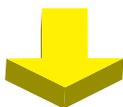
- 新しく作業の手順などを覚えることが難しく、一度覚えても忘れてしまう



- 初めて見ても分かりやすい手順書をつくりましょう。

注意障害

- 視力に問題はないが、見落としが多い



- 見落としははたいてい一つの方向（右側等）に偏っています。見落とさない側にメモや指示を置くとよいでしょう。

遂行機能障害

- 予定を忘れてしまい実行できない



- 予定も含めて、物事を忘れないよう、使いやすいメモの利用を習慣づけるようにしましょう。

就労支援の視点

《失語症を知る、当事者を知る》

失語症は知的能力が低下したり、ものを考えることができなくなる障害ではありません。自分の言いたいことをうまく伝えたり、相手の言うことを正確に理解することが難しくなる障害です。したがって、本人の特徴に合わせて周囲の人がコミュニケーションの方法を工夫していくことが大切です。そのためには当事者の言葉の機能や特徴をよく知っている主治医や言語聴覚士の意見を参考にしましょう。

⇒ 7ページ

リハビリテーション科専門医勤務施設一覧
高次脳機能障害者支援拠点機関一覧
全国失語症友の会連合会一覧

《仕事と失語症》

失語症の方にはどのような仕事に向いているのでしょうか？ 一口に失語症といっても障害の程度は様々です。仕事の適性を考えるには、失語症の症状のほかにどのような特徴や能力があるのか、得意なことや不得意なことは何か、本人の個性をふまえてその能力に見合った職業を探したり作業を見つけることが必要になります。こうしたサポートを行うのが就労支援の専門家です。就労支援機関（ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、障害者職業総合センターなど）に相談してみましょう。

⇒ 7ページ

全国のハローワーク一覧
地域障害者職業センター一覧
障害者就業・生活支援センター一覧

《職場の理解と協力》

実際の就労場面で、当事者とコミュニケーションをとり、助け合い、共に仕事をするのはその職場の同僚の人達です。失語症がある人の雇用継続には職場の人の理解と協力が欠かせません。医療機関や就労支援機関の専門家と話し合っ、職場の中で失語症についての理解を深め、当事者に合った仕事を考える等、じっくりとその環境を作り上げていきましょう。職場での接し方や仕事の進め方については“ジョブコーチ支援”がとても役立ちます。

⇒ 6ページ

就労支援サービス

医療機関と会社が協力しているケース

Aさんは営業職でしたが、受傷後は失語症のため現職復帰が困難となり、事務職に配置転換して復職し、現在はパソコン入力作業を行っています。

復職後の職務配置や作業内容は上司のすすめにより見直しを行うこととなりましたが、この際に有益だったのが医療機関との会議でした。

失語症を含め障害者の職場復帰支援の経験が豊富な医療機関から、医師、言語聴覚士、心理士、作業療法士等の専門職が参加し、会社の人に障害特性（身体機能や失語症を含む高次脳機能障害）の説明を行いました。その上で、会社としてできる配慮にはどのようなことがあるか、また会社の作業環境はどのような様子か（社内の写真や工程表などを会議に持参）を把握し、Aさんの職務について具体的なアドバイスをを行いました。

Aさんの場合、特に失語症を有する者に対するコミュニケーションの手法等についてのアドバイスが行われました。（例えば、1回の指示で伝わらない場合は繰り返し言って伝える等）

復職にあたっては、会社の中で決定権を持つ所長や部長が会議に出席したこと、職場におけるキーパーソンを決定したこと（次回よりキーパーソンが必ず出席）等の綿密なやり取りが医療機関を交えて行われたことが、復職・定着のポイントになりました。

会社の積極的な姿勢により

雇用継続に至ったケース

Bさんは研究職として商品開発を行っていましたが、脳挫傷により、読むこと、書くことが多少困難となりました。このため研究職に必要な報告書執筆等が難しいと思われたため、「顧客対応係」として復職してもらうこととなりました。

このときは会社側はBさんの能力をかなり過大視していました。顧客対応の仕事はBさんの失語症状や性格適性に合わず、メモによる連絡や会議への参加など、様々な面で困難がありました。

Bさんの就業継続を図るため、直属上司が医療機関と何度も会議や面談を重ね（受傷直後、回復前の症状が重い時、復職のタイミングの検討時、復職直後の計4回）、障害特性の理解に努めました。復職後の現場での状況を把握し、医療機関と一緒に対応方法を試行錯誤したことが、障害特性の理解には重要であったとのこと。これらを通して、本当の能力が理解でき、英語読解能力は保たれていたため、「海外文献の資料収集」の仕事に再度配置転換が行われ雇用継続に至りました。

Bさんの就労定着のポイントは会社側の何としても雇用し続けようという強い気持ちと、医療機関と一緒にあって対応方法を試行錯誤した粘り強い姿勢にあったといえます。

トライアル雇用とジョブコーチ

支援を利用したケース

Cさんは、読む、聞く、書くことはある程度可能ですが、話すことは困難性が残っている状態です。また、右上下肢に麻痺もあり、就職当初は自力での歩行にも課題がありました。

就職活動に当たっては、まずはトライアル雇用を使って現在の障害状況と従事する作業の適性を見極めることとし、ハローワークからは、液体試料のカップを使った計量作業及びパソコンへのデータ入力作業を内容とする求人の紹介がありました。しかし、試料の種類や測る量が毎日変更するため、Cさんが作業内容の変更に的確に対応できるようにする工夫が必要でした。そこで、地域障害者職業センターのジョブコーチを活用し、Cさんの障害状況と作業の課題分析の結果を照らし合わせながら、作業手順の見直しや図、文字を用いた分かりやすい指示の出し方を整理し、自力での作業に向けて段階的に支援を行うことで、Cさんは正確な作業に取り組むことが可能になりました。

その後、会社全体の設備更新に伴い、Cさんは新たな作業を担当することになりましたが、職場の上司は以前ジョブコーチ支援を活用した際にCさんの支援上のポイントなどを引き継いでいましたので、新しい作業の指導に当たっても大いに役立ちました。

Dさんはビル管理会社で施設整備のメンテナンス業務を行っていました。受傷後、軽度の失語症があるため、安全面、健康面を考慮して内勤となり、ビル内の各店舗からの届出書類が様式通りに整えられているかどうかをチェックする仕事に就くこととなりました。

作業内容は受傷前に行っていた業務とは大きく異なり、書類の様式を調べるものなので、文章の内容を読んで理解する必要はありませんが、新たに手順を覚える必要がありました。

復職するにあたり、障害者職業総合センター職業センターの職場復帰支援プログラムを利用しました。このプログラムでは、復帰後の職務を想定した訓練として、パソコンを使ってのデータの入力や検索、多数の書類管理、文書入力、郵便物仕分けなど実務に即した訓練が行われました。これに加え、事務作業、OA作業、実務作業、スケジュール管理などにも取り組みました。これらの訓練に取り組んだ後、会社内で実地講習を行い、短時間勤務を経て現在の就労定着に至っています。

Dさんの成功のポイントは、①失語症により難しくなった能力をあまり必要としない職務を創出したこと、②復職を見据えて、時間をかけて支援したこと、などがあげられます。

また、仕事内容だけでなく、会社の同僚や上司の方々が、Dさんの体調に不安がある場合はすぐに休めるようにするなど、健康面にも配慮した勤務体制を徐々に作り上げていったところもポイントとなります。

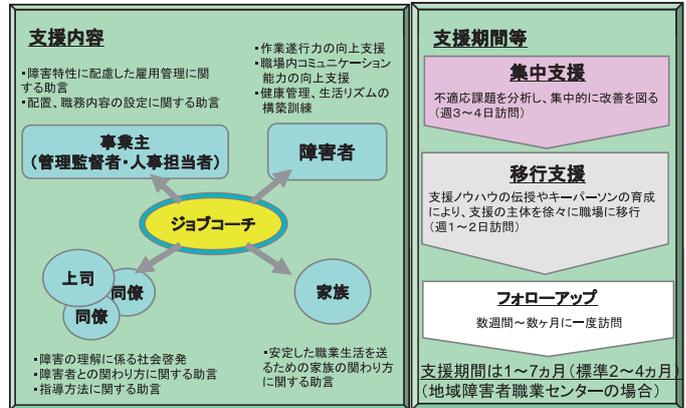
職場復帰支援プログラムを利用したケース

就労支援サービス

職場適応援助者(ジョブコーチ)による支援事業

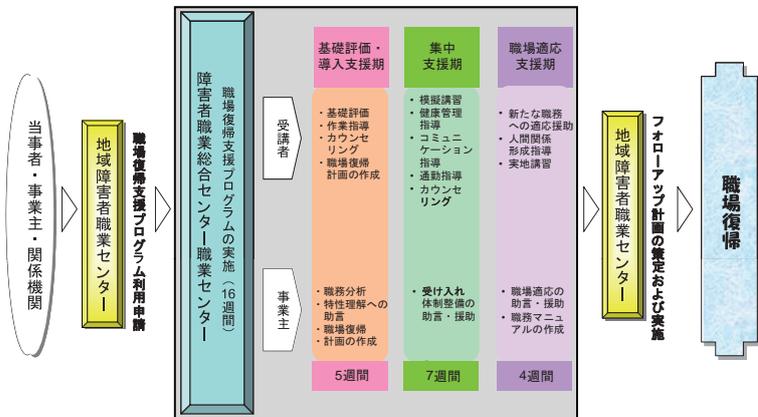
- ・求職中または在職中の障害者が職場に適応できるよう、障害者職業カウンセラーが策定した支援計画に基づきジョブコーチが職場に向いて直接支援を行います。
- ・ジョブコーチは職場に対して、当事者との関わり方や作業方法の指導の仕方について専門的な助言を行います。また、障害の理解についての社内啓発を行います。これらにより職場による支援体制の整備を促進し、当事者の職場定着を図ります。
- ・期間は、標準的には2~4ヶ月ですが、1ヶ月~7ヶ月の範囲で個別に必要な期間を設定します。
- ・問い合わせ先：各都道府県の地域障害者職業センター（7ページ）
- ・詳しくは「職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援事業」をご覧ください。

<http://www.jeed.go.jp/disability/person/jobcoach/job01.html>



高次脳機能障害者のための職場復帰支援プログラム

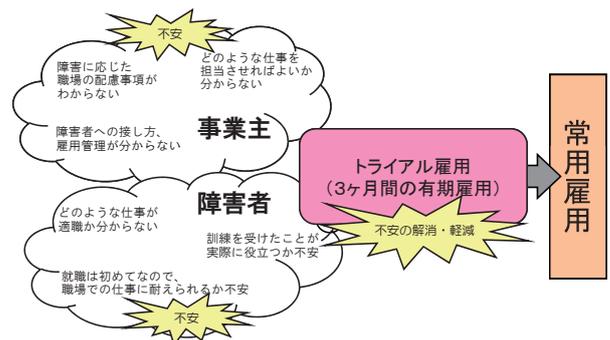
- ・障害者職業総合センター職業センターでは、疾病・事故等により休職している高次脳機能障害者が円滑に職場復帰できるよう、障害の状況や特性に応じ、職業生活全般にわたって必要な支援を行うとともに、事業主に対して職務や職場環境整備等の受け入れ準備に関する支援を併せて行います。
 - ・期間は16週間で、基礎評価・導入支援（5週間）、集中支援（7週間）、職場適応支援（4週間）の支援を行います。
 - ・問い合わせ先：障害者職業総合センター職業センター（7ページ）
 - ・詳しくは「高次脳機能障害者の方への就労支援」をご覧ください。
- www.nivr.jeed.go.jp/download/center/support05.pdf



試行雇用（トライアル雇用）

- ・事業主は、新規に雇用する人に対して原則3ヶ月間の試行雇用（トライアル雇用）を行うことにより、適性や業務遂行可能性などを実際に見極めた上で、試行雇用終了後に本採用するかどうかを決めることができます。
- ・事業主は、試行雇用期間に対応して、対象労働者1人あたり月額4万円(最大12万円)の奨励金を受け取ることができます。
- ・問い合わせ先：各都道府県のハローワーク（7ページ）
- ・詳しくは「トライアル雇用のご案内」をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/pdf/c02-1a.pdf>



失語症のある人の相談、支援機関

共通のニーズ

本人のニーズ

事業主のニーズ

失語症がどのようなものか知りたい

失語症のある人との一般的なコミュニケーションの取り方について知りたい

- ・リハビリテーション科専門医勤務施設一覧
<http://member.jarm.or.jp/facility.php>
- ・高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関一覧
http://www.rehab.go.jp/ri/brain_fukyu/kyoten_list.pdf
○失語症の治療、リハビリ、症状に関すること
- ・全国失語症友の会連合会一覧
http://www.japc.info/japc_4-2.html
○失語症と家族、支援者の集まりである全国の「失語症友の会」で構成される団体。情報交換、機関誌の発行等。

職場での生活だけでなく、日常生活面での相談をしたい

失語症のある従業員について、相談をしたい

- ・障害者就業・生活支援センター 一覧(全国300か所(2011年4月))
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/shougai sha02/pdf/10.pdf>
○就業及びこれに伴う生活上の相談、関係機関との連絡調整

仕事を探したい。どんな仕事に向いているか相談したい。

失語症のある人を雇用する際、事業所が利用可能な支援策について知りたい

- ・全国のハローワーク一覧 (全国545か所 (2011年4月))
<http://www.mhlw.go.jp/kyujin/hwmap.html>
○職業相談、職業紹介、トライアル雇用や各種助成金等の支援策

職場に適應できるか不安なので専門的な支援を受けたい

失語症の人に職場でどのように接していけばいいか知りたい

- ・地域障害者職業センター 一覧 (全国47センター、5支所)
<http://www.jeed.go.jp/jeed/location/loc01.html>
○職業評価、職業準備支援、職場適應援助者(ジョブコーチ)による支援事業

もとの職場へ復帰するために専門的な支援を受けたい

復職時、どのような受け入れ体制をとればいいのか知りたい

- ・障害者職業総合センター職業センター (千葉県千葉市)
<http://www.jeed.go.jp/jeed/location/nivr.html>
○高次脳機能障害者のための職場復帰支援プログラム

編著・発行 独立行政法人高齢・障害者支援機構
障害者職業総合センター
〒261-0014 千葉県美浜区若葉3-1-3
電話043-297-9067

発行日 2011年4月
印刷・製本 株式会社 こくぼ